

たいじゅ ~119輪の花を咲かせ、
大樹
そして未来へ~



香川大学教育学部附属坂出中学校
3年団通信 ~ 卒業おめでとう号 ~
2020. 3. 13 (金)

ご卒業おめでとうございます

<p>1組 担任 池下 香 <small>いけした かほ</small></p> <p>9年前の東日本大震災。その時も3年担任でした。「卒業式ができてよかった」と大人になっても言う彼ら。皆さんも何年後かにはそうなりますね。この日を迎えられる本当にうれしいです。こんなにそう思えたのは皆さんのおかげです。卒業おめでとう。119名とのすばらしい出会いに感謝します。幸多きことを願っています。</p>	<p>2組 担任 徳永 賢仁 <small>とくなが たかひと</small></p> <p>卒業おめでとう。将来自分の子どもができた時、その子に自慢できる今この時を過ごすことができましたか？</p> <p>私はみなさんを見て、きっと何かを見つけられたと感じています。カッコいい大人に、親になるために、これからもがんばって。ありがとう。</p>	<p>3組 担任 伊賀 梨恵 <small>いが りえ</small></p> <p>みなさんの笑顔から「元気」をもらい、苦しいことを乗り越えて成長していく姿から「勇気」をもらっていました。</p> <p>日常の何気ない一言で心が救われたこともありました。みなさんには感謝の気持ちで一杯です。3年間本当にありがとうございました。</p>
<p>1組 副担任 鷺辺 章宏 <small>わしべ あきひろ</small></p> <p>3年前に入学してきた頃のまだ幼かった君たちのことを思い出します。君たちともっと授業がしたかったなあ。たくさんの愛情を受けてきたみなさん、次は君たちが愛情を周りに与えられる人になってください。卒業おめでとう。今後の活躍が楽しみです。</p>	<p>2組 副担任 木村 香織 <small>きむら かおり</small></p> <p>ご卒業おめでとうございます。どんな時でも、明るく前向きにさまざまなことに挑戦していた皆さん。附属坂出中で培った、探究心と対話力を存分に発揮して、それぞれの道で活躍してください。「プレッシャーのない人生ほど 退屈なものはない。 錦織圭」</p>	<p>3組 副担任 大西 正芳 <small>おおにし まさよし</small></p> <p>卒業おめでとう。みなさんにとってかけがえのない3年間だったと思いますが、みなさんにはまだまだ経験が必要です。</p> <p>これからの数年間は「自分探しの旅」の柱となる時期です。自分を見つめ、多くの経験とともによき心の旅をしてください。</p>

〈公立高校合格発表〉

3月19日(木) 9:00 (各高校へ、受検票を持って)

私立高校等へ進学される場合は、入学手続きを締め切り日時までお願いいたします。そして、学級担任が進学する高校を確認のためお電話をさせていただきます。できるだけ午前中に連絡させていただきますのでご協力をお願いいたします。

保護者の皆様へ

3年間たいへんお世話になりました。

今日巣立つ子どもたち。

明るく元気で、本当に心の温かい子たちでした。

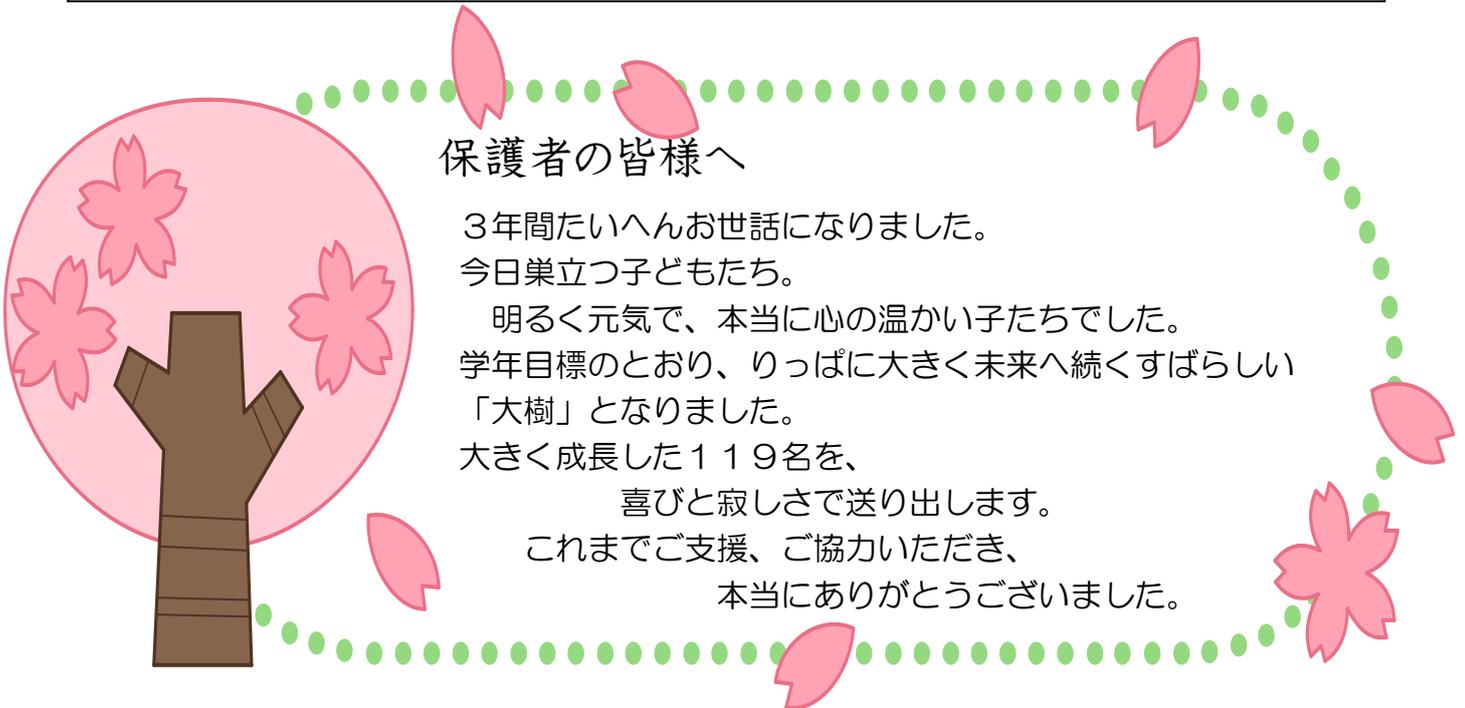
学年目標のとおり、りっぱに大きく未来へ続くすばらしい「大樹」となりました。

大きく成長した119名を、

喜びと寂しさで送り出します。

これまでご支援、ご協力いただき、

本当にありがとうございました。



贈る言葉



ドラマなら、卒業式で最終回を迎えます。でも、みなさんの人生の「ものがたり」は、まだまだ続きます。これからいろいろな人に出会って、いろいろな出来事があるって、予想がつかないようなこともたくさんあります。楽しいことばかりではありません。残念ながら、つらいこと、いやなこと、苦しいこと、哀しいこともあります。それでも、いつも前を向いて、勇気を出して次の一步を踏み出してください。そうすることで、明るい未来にきっと近づいていけると信じています。

前へ

少年の日に読んだ「家なき子」の物語の結びは、
こういう言葉で終わっている。

大木 実

——前へ。
僕はこの言葉が好きだ。

物語が終わっても、

僕らの人生は終わらない。

僕らの人生の不幸は終わりが無い。

希望を失わず、つねに前へと進んでいく、

物語の少年ルミよ。

僕はあの健気なルミが好きだ。

辛いこと、厭なこと、哀しいことに出会うたび、

僕は弱い自分を励ます。

——前へ。



あなたは、どっちの「もう少し」を選ぶ？

もう少し テレビを見てもいいだろう。

もう少し 寝てもいいだろう。

もう少し なまけてもいいだろう。

もう少し 楽してもいいだろう。

もう少し もう少し・・・

この「もう少し」は、少しずつ自分をだめにしてしまう。

これでは心に流されていくだけだ。

そして、どんどん加速がついていく。

気づいたときには、もう弱い自分を直せない。

つらいけれど もう少し練習しよう。

腹がたつけれど もう少し歯をくいしばろう。

悲しいけれど もう少し涙を流すのをよそう。

くやしいけれど もう少し 耐えよう。

こんな「もう少し」は、いつか強い自分を育ててくれる。

強いといっても力が強いとか、自分の思い通りする身勝手な強さじゃない。

じっと耐えて、自分にちよっぴり厳しくする強さなのだ。

あなたは、どっちの「もう少し」??

（『人生の式にまつわる63のアフォーリズム』

藤原東濱）